

JIMGAnews

第22号

平成26年度第一回理事会・評議員会合同会議及び定時総会開催について

平成26年度第一回理事会・評議員会合同会議について

5月19日、東京會館にて平成26年度第一回産業ガス部門理事会・評議員会合同会議が開催されました。豊田会長の「今年度の活動方針」などに関する挨拶後、議長に選出された豊田会長の進行により、事務局各担当が事業報告・計画をプロジェクターを使って説明しました。この他、今年度より運用を開始する電子データ交換システムに関する議題も全会一致ですべて承認されました。

定時総会開催について

6月10日、東京會館にて部門総会・定時総会を開催しました。午前中に会長記者会見を開催し、午後からはシンポジウム、総会前理事会、総会、総会后理事会懇親会と続き、総会で表彰制度の表彰式を行いました。

シンポジウムでは約200名の受講者を前に、岩隈秀峰副部長（技術・保安部会）の挨拶後、①「カードル自主技術指針（初版）」（日本エア・リキード(株)農頭重喜氏）、②「酸化エチレン滅菌ガスの取扱い」（昭和電工ガスプロダクツ(株)土居尚志氏）のふたつのテーマの講演が行われました。

部門総会・定時総会では豊田会長の挨拶後、部門総会で各部門の評議員候補が承認され、「事業報告・事業計画、予算・決算」などが定時総会にて全会一致で承認されました。

その後の表彰式では、協会の事業に協力し成果を上げた産業ガス部門18件、医療ガス部門21件の個人や事業所に対して功労賞、安全賞等として、豊田会長より表彰状と記念品が授与されました。表彰理由と受賞者の一覧は3～4ページに掲載しています。また、本総会で2期4年にわたり会長を務め、協会の発展に尽力された豊田昌洋氏が会長を退任し、花束と記念品が贈呈されました。新会長には大陽日酸株式会社代表取締役副会長の間邦司氏が選任されました。

懇親会は約270名が出席し、盛大に開催されました。間新会長の挨拶に続き、厚生労働省原医政局長、経済産業省谷審議官、高圧ガス保安協会作田会長による来賓の挨拶、今井新副会長の



受賞者の皆さま

の乾杯で始まりました。和やかに懇親会が進み、鈴木副会長の中締めにより全ての催しが滞りなく終了しました。各位の挨拶は9月末発行の「産業ガスレポート 秋号」に掲載予定です。

(産業ガス部門・石原 智子)

定時総会における豊田会長退任挨拶

思い返せば、平成13年度より当時の日本産業ガス協会の常任理事・副会長を6年、平成19年の日本産業・医療ガス協会発足後は副会長を3年、平成22年度より会長を4年、合計13年間もの永きにわたり協会に籍を置く機会をいただきました。

私が会長に就任したのは平成22年6月ですが、その年は1月に高圧ガス業界に対し一斉に公正取引委員会の立入り検査があり、前途多難な船出となりました。

そこでこの4年間はコンプライアンスの徹底を協会の重要課題のひとつに掲げてきました。

翌年の平成23年3月に東日本大震災が発生しました。JIMGAでは政府要請に基づき、また全国の会員の方々の多大なるご協力を得て、震災直後から医療用酸素ガスおよび関連機器を被災地へ緊急輸送しました。更に産業ガス部門・医療ガス部門および地域本部が連携し、被災状況の情報収集や発信を行い、厚生労働省・経済産業省をはじめとする関係官庁への陳情等の要請を行ってきました。この東日本大震災を契機に、エネルギー問題への対応が大きな課題となりました。原発停止による電気料金の値上げは当業界の死命を制する重要な問題です。電力各社・関係官庁に値上げ幅の圧縮を要請することで、エネルギー政策の策定に一石を投じることができたのではないかと考えております。

更に昨年10月、内閣は消費税増税を決定し、今年の4月より8%に移行しました。消費税の転嫁をスムーズに行えるか否かは当業界の行く末を占う大きな問題です。政府が成立させた「消費税転嫁対策特別措置法」の活用を決定し、転嫁カルテル・表示カルテルを公正取引委員会に届け出ました。これにより昨年10月から今年度の製品価格への消費税転嫁に向けての共同行為が公正取引委員会に承認されました。

この他に産業ガス・医療ガス両部門共通では、保安の確保・事故防止対策の推進、表彰制度の運用開始、両部門の一体運営の強化に向けた事務所移転などを行いました。産業ガス部門では、広報活動の強化を目的とした「JIMGAnews」の新規発行、北海道から九州まで94拠点39万本にまで拡大した容器RFタグの普及促進、環境問題への対応、国際標準化・整合化への取組み、NEDOからの受託事業である水素ステーション関連技術基準検討ワーキングの立ち上げ、今年度から運用を開始する電子データ交換標準化ワーキングの設置などを行いました。医療ガス部門では、就任前は19都府県だった災害時防災協定の47都道府県完全締結、日本のPIC/S（医薬品査察協議会及び医薬品査察協同スキーム）加盟にあたり協会主導の厚生労働省への働きかけによる日本国内の医療用ガスの製造管理および品質管理基準の制定、MGR制度の拡充等があげられます。これらの種々の取組みが実現できたことは、ひとえに関係各位の皆さまのご協力のたまものであると深く感謝しております。

最後になりましたが、今後も会員の皆さまのJIMGA諸活動への変わらぬご協力、ご支援をお願いするとともに皆さまの益々のご健勝を祈念して私の挨拶とさせていただきます。長い間、まことにありがとうございました。



退任挨拶の様子

JIMGA平成26年度表彰受賞者一覧 <産業ガス部門>

(敬称略)

表彰区分	受賞者名	受賞理由	対象者・事業所数
業務功労賞	広報委員会タスクフォース 代表 大岡 光寿	広報活動の強化により、JIMGAおよび高圧ガス業界の社会的地位・認知度の向上に大きく寄与した。	4名
災害功労賞	技術・保安部会 水素技術WG 代表 御手洗 浩二	「水素ガス移動基準」、「水素ガス消費基準」を改訂し、各地域にて講習会を開催し周知を図った。	21名
環境保全功労賞	環境・安全部会 省エネフォローアップ小委員会 代表 小長谷 義明	「省エネフォローアップ委員会」を設置し、「環境自主行動計画フォローアップ調査結果」を取りまとめた。	5名
標準化功労賞	容器RFタグ運営委員会WG 代表 横谷 和貴	RFタグの規格を統一し、業界での標準化（仕様の共通化）およびセキュリティの確保を達成した。	19名
	技術・保安部会 国際会議派遣チーム 代表 金田 孝雄	国際会議において「可溶栓付き溶解アセチレン容器の基本要件」の見直しを行い、日本案（19項目中12項目）が採用された。	5名
流通改善功労賞	企画部会 グリーン物流WG 代表 網倉 吉彦	長年にわたり、高圧ガス輸送におけるCO ₂ 排出削減の検討および取組みを行い、啓発活動を継続した。	7名
保安教育功労賞	技術・保安部会 炭酸ガス 技術WG	「液化炭酸ガス関係基準類」の作成ならびに全国における炭酸ガス保安講習会において保安教育を実施した。	11名
地域活動功労賞	東北地域本部 葛西 信二	東北地域本部においてガス事業に関連する種々の分野の危機管理体制の構築に尽力した。	1名
	北陸地域本部 小倉 善興	長年にわたり、北陸地域本部の発展に貢献し、保安の啓発活動および容器管理の徹底等に携わった。	1名
	中国地域本部 藤井 基博	長年にわたり、JIMGAの中国地域における産業ガスの牽引役として活躍した。	1名
安全賞	東京酸素窒素(株)	長年にわたり無事故・無災害記録を継続している。	1事業所
	北酸高圧瓦斯(株)	長年にわたり無事故・無災害記録を継続している。	1事業所
	大洋化学工業(株)	長年にわたり無事故・無災害記録を継続している。	1事業所
	協和ガス(株) 大阪工場	長年にわたり無事故・無災害記録を継続している。	1事業所
	四国大陽日酸(株) 香川営業所	長年にわたり無事故・無災害記録を継続している。	1事業所
	山陽酸素(株)	長年にわたり無事故・無災害記録を継続している。	1事業所
	(株)鶴崎サンソセンター	長年にわたり無事故・無災害記録を継続している。	1事業所
鹿児島酸素(株)	長年にわたり無事故・無災害記録を継続している。	1事業所	

(順不同・敬称略)

業務功労賞		環境保全功労賞		標準化功労賞	
広報委員会タスクフォース		環境・安全部会 省エネフォローアップ小委員会		技術・保安部会 国際会議派遣チーム	
大岡 光寿	岩谷産業(株)	小長谷義明	大陽日酸(株)	金田 孝雄	岩谷瓦斯(株)
野田 優子	エア・ウォーター(株)	山根 広幸	日本エア・リキード(株)	斎藤 信三	元 岩谷瓦斯(株)
鎌田 暁子	大陽日酸(株)	宮川 卓男	エア・ウォーター(株)	野村 真澄	高圧ガス工業(株)
永田 敦子	日本エア・リキード(株)	森山 秀樹	岩谷産業(株)	井本 弘	元 関東アセチレン工業(株)
災害功労賞		標準化功労賞		流通改善功労賞	
技術・保安部会 水素技術WG		容器RFタグ運営委員会WG		企画部会 グリーン物流WG	
御手洗浩二	岩谷瓦斯(株)	横谷 和貴 岩谷産業(株)		網倉 吉彦 日本エア・リキード(株)	
井原 理博	岩谷瓦斯(株)	永野 訓司 高圧ガス工業(株)		水津 久徳 岩谷産業(株)	
岡本 歩	大陽日酸(株)	竹村 忠 高圧ガス工業(株)		奥島 賢治 エア・ウォーター(株)	
磯部 佳伸	昭和電工(株)	川井 幸輔 岩谷産業(株)		高橋 将智 エア・ウォーター炭酸(株)	
佐藤 研一	尼崎水素販売(株)	河原 英昭 エア・リキード工業ガス(株)		盛野 康雄 昭和電工ガスプロダクツ(株)	
生原 一樹	伊藤忠工業ガス(株)	橋本 和宏 エア・リキード工業ガス(株)		野村三千昭 大陽日酸(株)	
岸本 顕嘉	岩谷産業(株)	白井 清司 エア・ウォーター(株)		水口 宏之 日本炭炭(株)	
柴田 展良	エア・ウォーター(株)	塚本 健 エア・ウォーター(株)			
時田豊志和	エア・ウォーター・ハイドロ(株)	及川 哲 エア・ウォーター(株)		保安教育功労賞	
丸山 利和	新日鉄住金化学(株)	河野 靖彦 大陽日酸(株)		技術・保安部会 炭酸ガス技術WG	
柏山 幸一	(株)鈴木商館	沼田 博美 大陽日酸(株)		越部 薫 日本炭炭(株)	
山田 修三	東亜テクノガス(株)	平尾浩二郎 大陽日酸(株)		菊池 義明 エア・ウォーター炭酸(株)	
島田 寿郎	東京ガスケミカル(株)	壺内 俊宏 大陽日酸(株)		澤田 昇 昭和電工ガスプロダクツ(株)	
上田 義人	東曹ダイスイ(株)	長谷川正泰 小池酸素工業(株)		及川 行夫 上毛天然瓦斯工業(株)	
中市 寛彦	東邦アセチレン(株)	伊藤知佳子 全国高圧ガス容器検査協会		嘉陽 邦彦 岩谷産業(株)	
曳地 項次	新潟水素(株)	坂東 竹夫 岩谷情報システム(株)		塚本 元 近畿炭酸(株)	
宮脇 一嘉	日本エア・リキード(株)	村上 泰之 岩谷情報システム(株)		細山田 学 東京炭酸(株)	
小林 隆	福岡酸素(株)	上林 亮司 高圧ガス工業(株)		長谷川光一 知多炭酸(株)	
板倉 久郎	北酸高圧瓦斯(株)	三戸 勇一 (株)巴商会		日下 裕之 岩谷産業(株)	
澤田 庸介	丸由工材(株)			高橋 信行 東京炭酸(株)	
安久井 満	(株)渡商会			渡邊 一範 知多炭酸(株)	
				地域活動功労賞	
				(株)東酸	
				葛西 信二	
				小倉 善興	
				宇野酸素(株)	
				藤井 基博	
				藤井商事(株)	

JIMGA平成26度表彰受賞者一覧 <医療ガス部門>

(敬称略)

表彰区分	受賞者名	受賞理由	対象者・事業所数
会長賞	MGR委員会 代表 松田 常博	JIMGAの主要事業になったMGR制度は、医療ガスの安全供給のための従事者の質の向上に大きく寄与し、医療機関をはじめ多方面から評価されている。業界の社会的地位向上に大いに貢献しており、この制度の構築を担ったWGとその後の制度充実を図ったMGR委員会の功績は特に顕著である。	14名
業務功労賞	岩澤 利雄	長年にわたり会長を補佐し協会の発展に寄与した。特に産業ガスと医療ガスの両協会の合併に尽力し、現在の協会の礎を築いた。	1名
災害功労賞	中村 静男	長年にわたり中国地域本部保安委員長を務め、災害・保安対策に尽力した。特に管内5県との「災害時協定」締結に寄与した。	1名
保安教育功労賞	松井 美嘉子	長年にわたり在宅酸素講習会の親委員会委員として委員会の運営に参画した。講師としても在宅酸素療法従事者のレベル向上に貢献した。	1名
	小笠原 司	長年にわたり北海道における医療ガス保安講習会の運営に尽力し、自ら講師を務めるなど保安教育の充実に貢献した。	1名
地域活動功労賞	近畿地域本部 山下 英世	長年にわたり近畿地域本部の役員を歴任した。阪神大震災時には医療ガスの供給に尽力し、兵庫県との協定に基づくBCP策定を主導するなど地域活動に貢献した。	1名
	中国地域本部 山田 幸助	長年にわたり地域本部副本部長を務め、特に平成24年度に山口県との「災害時協定」の締結に尽力するなど地域活動に貢献した。	1名
安全賞	(株)佐藤酸素	長年にわたり無事故・無災害記録を継続し、東日本大震災時には医療機関の業務継続に多大な貢献をした。	1事業所
	(株)アポロ月山	長年にわたり無事故・無災害記録を継続し、保安講習会、防災訓練、放置容器撲滅、商慣行改善に率先して取り組んでいる。	1事業所
	埼玉日酸(株)	長年にわたり無事故・無災害記録を継続し、東日本大震災時には救護用医療用酸素の集積基地として支援活動に貢献した。	1事業所
	(株)サイサン 医療ガス部茨城営業所	長年にわたり無事故・無災害記録を継続し、東日本大震災時には埼玉県から被災地への医療ガスの供給を継続した。	1事業所
	菅沼産業(株) 千葉工場	長年にわたり無事故・無災害記録を継続し、医療ガスの安全な消費について医療機関にきめ細かい指導を実施している。	1事業所
	(株)ステリテック	長年にわたり滅菌ガス事業において埼玉県加須市と神戸市のセンターで無事故・無違反記録を継続している。	1事業所
	(株)日本高圧瓦斯	長年にわたり無事故・無災害記録を継続している。	1事業所
	東遠ガス溶材(株)	長年にわたり無事故・無災害記録を継続している。	1事業所
	岩谷瓦斯(株) 東海事業所岡崎工場	長年にわたり無事故・無災害記録を継続している。	1事業所
	(株)スミダ酸素商会 垂水支店	長年にわたり無事故・無災害記録を継続し、阪神大震災時には医療機関へ援助を行った。また緊急時対応訓練を継続している。	1事業所
	中国アセチレン(株) 宇部営業所	長年にわたり無事故・無災害記録を継続し、保安講習会の開催にも積極的に取り組んでいる。	1事業所
	高松日酸(株) 徳島営業所	長年にわたり無事故・無災害記録を継続し、在宅酸素装置の保守点検業務は医療関係者から高い評価を得ている。	1事業所
	土佐酸素(株) 宿毛営業所	長年にわたり無事故・無災害記録を継続し、地域の医療ガス供給拠点として供給確保に向けた防災体制の構築を進めている。	1事業所
	(株)武田商事	長年にわたり医療ガス製造工場の無事故・無災害記録を継続している。	1事業所

(順不同・敬称略)

会長賞		業務功労賞	
MGR委員会		岩澤 利雄	(株)イワサワ
松田 常博	日本エア・リキード(株)	災害功労賞	
大岡 光寿	岩谷産業(株)	中村 静男	(株)中村酸素
藤田 進	大陽日酸(株)	保安教育功労賞	
中島 昭人	大陽日酸(株)	松井美嘉子	前日本訪問看護財団主任教員
境谷 武久	日本エア・リキード(株)	小笠原 司	エア・ウォーター・テクノサプライ(株)
江場 大二	(株)エバ	地域活動功労賞	
河島修一郎	帝人ファーマ(株)	山下 英世	(株)水島酸素商会
三浦 亨	エア・ウォーター(株)	山田 幸助	(株)特殊ガス商会
加藤 俊康	エア・ウォーター・メディカル(株)		
平尾浩二郎	大陽日酸(株)		
村上 良二	パイタルエア・ジャパン(株)		
高平 進一	エア・ウォーター・メディカル(株)		
小林 浩	東京慈恵会医科大学講師		
武田 純三	独立行政法人 国立病院機構 東京医療センター病院長		

会員紹介 ー協和ガス株式会社ー

協和ガス株式会社では、さまざまな事業分野のお客さまの要望に応じた最適な供給方法を提案すべく全国に4つの生産拠点を設けています。長年にわたる産業ガスの取引のなかでお客さまとの強い信頼関係を築いてきました。当社の主要生産拠点である協和ガス株式会社 大阪工場を紹介します。

沿革

1938年、ものづくりの町工場が集まる大阪府東大阪市（現操業地）で協和酸素製造所として創業し、当時から酸素製造工場として産業界の一端を担ってきました。その後、高度経済成長に伴い製造工場から充てん工場へと移管して酸素・窒素・アルゴン・炭酸のCEタンクを設けました。更に事業範囲を医療分野にも拡げ、JIMGAの指導と官庁の厳格な審査を



大阪工場の外観

を経て医療用ガス類の「製造販売業」、「第二種医薬品製造販売業」の認可を得ました。それと共に建物の増改築を行い、屋内外の整備と各充てんラインを充実させ、現在に至っています

設備

シリンダー充てんラインには、酸素（4系列）、窒素（2系列）、アルゴン（3系列）、炭酸ガス（2本切替）、アルゴン+炭酸ガス混合（1系列）があり、更に酸素・窒素・アルゴンのカードル充てん設備があります。LGC容器自動充てん設備には、酸素（4本建）、窒素（2本建）、アルゴン（2本建）、炭酸（2本建）があります。OCR（可動式超低温容器）1トン用の充てん設備は酸素および窒素（各1カ所）です。

また容器再検査設備を工場棟内の一画に設け、専門の従業員が保有容器およびお客さまの容器の検査を行っています。2013年には最新式のバルブ脱着機を導入し、検査精度と作業効率が向上しました。

当事業所ではこれらの製造設備と多量の保有容器と共に、設備・容器の大切さをも諸先輩から学び、次世代へと引継いでいます。

更にすべての容器にバーコードラベルを貼り付け、ハンディーで売上・容器・充てんデータの送信を行い、自動（コンピューター）処理することにより、お客様の信頼と社内の事務効率を高めています。

人員

現在、本事業所で業務にあたるスタッフは、管理責任者1名、製造部門10名、配送部門7名、業務部門6名、営業部門8名です。このうち、現時点での高圧ガス関連の国家試験合格者数は高圧ガス販売主任者免状20名・丙種化学（特別）15名・乙種化学1名です（重複あり）。その他に

医療ガスMGR認定者1名および非破壊検査認定者2名の体制で業務を行っています。

営業面での取り組み

営業面では伝統的に、担当者自らがトラックによるガスの配送を行っています。ガスの運搬で顧客への訪問回数を増やすことにより、緊密なコミュニケーションを図ることを重視しているためです。また約10年前よりシステムを導入して容器使用料の徴収を行い、商習慣の改善にも積極的に取り組んでいます。現在70%強の覚書締結を得て、容器の回転・残ガス容器回収の効率も良くなっています。

保安と教育

毎年恒例で10～11月に当社独自の保安月間を制定して各方面への取り組みを行っています。お客さまに対しては「保安点検」・「周知文書配布」・「残ガス容器回収」など自主保安の周知徹底の依頼を行い、ガス使用時の器具類点検・消火器の配備・防災工具類の備えなどの的確な情報提供を実施しています。



充てんラインの様子

社員教育については無事故・無災害・無違反の継続をめざし当社で作成した「高圧ガス保安法 概要」、「高圧ガスハンドブック 基礎知識編」を活用しています。対象者は日頃から自己啓発とスキルアップを図り、きめ細かい保安技術と安全意識で業務に臨み、高圧ガスによる無事故が継続されています。同時に経験豊かな諸先輩から、生産管理（品質面）・安全管理（保安面）などの手ほどきを受けます。このような事業所独自の文化が次の世代へと伝承されることを願っています。

高圧ガス保安協会、大阪府高圧ガス安全協会、大阪高圧ガス溶材協同組合、JIMGAなどが行う安全講習や研修には、積極的に参加し、JIMGA近畿地域本部の幹事会などからの安全情報も的確に活用しています。毎年、希望者は高圧ガス関連の国家試験に挑戦し有資格者も多くなっています。

今後、産業ガスの用途は多分野に拡大されていくことと思います。この事業において大切なことは安定した供給ネットワークを維持すると共に、無事故・無災害を継続し、従事者がスペシャリストとしての自覚と自信を持つことです。その結果、お客さまからの揺るぎない信頼と安心が得られるものと確信しています。

創業以来76年にわたる無事故・無災害記録が評価され、今回ご紹介した大阪工場はJIMGAより平成26年度表彰において安全賞を受賞しました。これは創業当時から現在にいたるまで、全従業員が一丸となり、保安と教育に努めてきた結果であると自負しています。これからも「REFINED KYOWA—無限大の未来へ—」のスローガンのもと、日々研鑽を重ねていく所存です。

(協和ガス株式会社 代表取締役社長 林 功)

2014ウエルディングショーに容器RFタグを出展

4月23日から26日まで東京・江東区の東京ビッグサイトで開催された「2014国際ウエルディングショー」に容器RFタグを出展しました。過去最多214社のブースがひしめく会場で、多くの方々がJIMGAブースを訪れました。

容器RFタグは放置・不明容器、長期滞在容器の撲滅を目指し、JIMGAが仕様を標準化した容器管理方法です。必要な情報を書き込んだRFタグを容器に装着して容器の識別や移動履歴等の情報を管理することで、保安・流通面での効率化、合理化を可能にします。

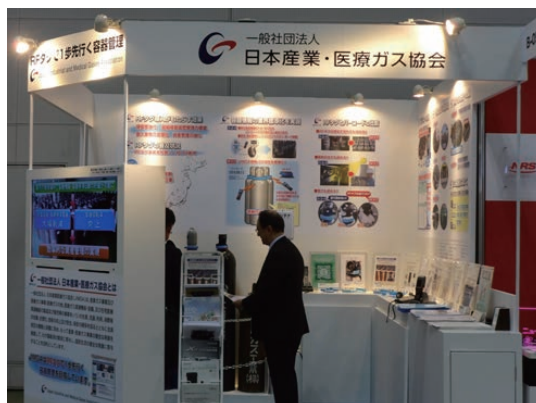
RFタグの特長は①メーカー・販売店・ユーザー間での容器のトレーサビリティ(追跡可能性)を実現、②複数容器の一括読み取り、離れた場所からの広範囲な読み取り(出力1Wで約2.5mを想定)が可能、③書き込み可能な情報量が多い(容器情報、充てん・移動情報等28項目のデータおよび自由な書き込み領域24bit)、④高い耐久性(耐用年数5年)一等です。このような容器RFタグを利用した容器管理方法は現在ISOでも規格化が進められており、JIMGA方式を盛り込んだ国際規格が2~3年後に制定される予定です。

RFタグの装着にはネックリングとして結束バンド等で取り付ける方法、またはシールタイプで容器上部に貼り付ける方法があり、シリンダー全般から、LGC、更にはカードルまで対応しています。また従来は難しかった小型の医療用ガス容器にも、バルブハンドルにタグを埋め込む方法などで装着が可能になりました。JIMGAでは2010年度より実運用を開始し、現在までに全国94拠点、約39万本の容器に装着されています(2014年4月末時点)。

JIMGAブースを訪れた方々は担当者との質疑応答や写真撮影など、活発な情報収集を行っていました。「(従来のシステムでは)移動履歴の管理が難しい」という悩みや「RFタグの読み取りスピードに驚いた」などの感想をいただき、RFタグに対する期待の高さを感じました。JIMGAブース以外でも、会員会社のブースでRFタグを装着した容器が展示され、RFタグ普及に向けた業界全体での取り組みをPRできたものと思われま



RFタグを装着した容器



JIMGAブースの様子

今回の出展を通して、溶接技術を支える産業ガス業界の責任の重さと、ガスの貯蔵・輸送を行う容器の安全・保安確保の重要性を改めて実感し、そこでRFタグが果たす役割は非常に大きなものであるとの認識を深めました。期間中は多くの方々にご来場いただき、誠にありがとうございました。ご協力いただきました会員会社の皆様、関係者の皆様にはこの場をお借りしてお礼を申し上げます。詳細はJIMGAホームページまたはtag@jimga.or.jpまで。

※関連記事をJIMGAnews第8号および第11号にも掲載しています。
(産業ガス部門事務局・石原 智子)